香美市立美術館 アートの窓

「西岡瑞穂展―いごっそう画家が描いたパリ、諏訪、高知―」

開催中～12月24日（月）

フランスのパリで油絵を学び、パリの風景や人物、長く住んでいた長野県諏訪市、生まれ育った高知の風景や静物の絵を多く描いた画家・西岡瑞穂の六十余年の画業を振り返る展覧会を開催します。

明治二十一（一八八八）年、高知県安田町生まれの西岡瑞穂は、明治四十五年に東京美術学校（現在の東京芸術大学）の図画師範科を卒業し、大正十四年まで鹿児島、長野、旅順（旧満州）で美術教師として学校に勤めます。退職後は、すぐにフランスに留学し、絵画研究に専念します。二年後には、フランス国政府サロン・レ・ザルチスト・フランセー、続いてサロン・ソサイエティー・ナショナル・デ・ボザールに数点の作品が入選し、日本人画家として注目されたそうです。昭和三年の帰国後、国画会に出品していましたが、次第に画壇の派閥にわずらわされることを嫌い、いずれの展覧会にも属さず独自の絵画を追求しました。昭和四十七年には、横浜市国立こどもの国の皇太子御成婚記念館貴賓室へ「室戸岬」一二〇号が、林武の「バラ」とともに飾られたことは、国内でも西岡の力量が認められていた証しだと思います。

昭和二十八年から四十五年にかけては、高知の室戸岬から足摺岬までの海岸風景をたくさん描いています。特に室戸を描いた作品が多く、古里の海に寄せる熱い思いが感じられます。

写真の作品は「毘沙姑（びしゃご）岩」です。水彩で描かれていますが、どっしりとした岩や動きのある波の表現は、水彩とは思えない力強さで、観る者に迫ってきます。

諏訪から高知に里帰りした西岡瑞穂の作品は、まさに、高知県民の誇れる文化遺産だと思います。多くの市民、県民の皆さまにご覧いただきたい展覧会です。

（館長・北　泰子）

「毘沙姑岩」西岡瑞穂

姉妹都市交流だより

第26回刃物まつりに積丹町訪問団が参加

十月二十、二十一日に鏡野公園で開催された『第二十六回刃物まつり』に、今年も姉妹都市の北海道・積丹町訪問団（団長＝山本俊三・積丹町商工会長）、総勢十一人が参加しました。

積丹町の訪問団が刃物まつりに参加するのは、今年で十回目となり、『積丹町の北海物産市場』の出店を楽しみに会場を訪れるお客さんもおり、長年にわたる交流の成果が実を結んでいます。

会場では、本場北海道の秋の味覚〝鮭のチャンチャン焼き〟の実演販売や、積丹町ブランドのジャガイモやカボチャ、積丹町でとれた海産物の珍味などを販売し、大勢のお客さんでにぎわいました。

（香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会事務局）

積丹町の味覚を届けた北海物産市場

第5回 吉井勇顕彰短歌大会

10月8日開催（場所＝吉井勇記念館）

十月八日、吉井勇記念館で、『第五回吉井勇顕彰短歌大会』を開催しました。今回は二百四十一人の方々より三百七十三首の投稿をいただきました。大会では、入賞者への表彰のあと、玉井清弘、楠瀬兵五郎両選者に選評をいただきました。

その後、高知県歌人連盟会長の楠瀬氏による講演を開催し、「現代短歌の悩み」について興味深いお話を聞かせていただきました。

たくさんのご投稿ありがとうございました。

（吉井勇記念館）

吉井勇大賞を受賞した加藤マスミさん（写真左）

受賞作品

◆吉井勇大賞◆

車椅子の母には見えぬ海に来ぬ母の脳裡に展がれ海よ　香川県　加藤マスミ

◆吉井勇賞◆

柚子熟るる山の段畑に夕日射し黄ひといろに川になだるる　北川村　浜渦　静子

草刈の音に負けじと鳴く蝉にやかましいねと声かけ笑ふ　高知市　猪野　百合

白紙の本そして今からぼくの本今から書きますぼくの人生　香北中一年　黒川　朋寛

◆玉井清弘賞◆

「のれたんだ」翼のように手をひろげ笑顔はじける一輪車の子　香美市　大石さち子

◆楠瀬兵五郎賞◆

わだかまる心鎮めし渓鬼荘杳（とお）き「勇」にふれしいちにち　高知市　西村　玉亀

◆佳　作◆

病む夫（つま）が力の丈に壊しをり「紛（まぎ）る」と珊瑚を磨きゐし桶　高知市　林　敏子

草萌ゆる子らの遊ばぬ遊園地すべり台一つオブジエのごとし　高知市　今井　光枝

更生を支ふるポスター農協の直販所にも「かえっておいで」　香美市　町　耿子

小樽港にはじまる子らの北の旅函館朝市の馬鈴薯届く　高知市　野村　丞子

夏休み自転車で行く塾通い入道雲は少し重たい　楠目小六年　岡本　望

◆一般投稿作品◆

広報委員会　選

栗を茹で友を呼びたくなる匂い　小笠原良子
せちがらき御代の棚田や豊の秋　岡本　朴舟
雨上がり露草の花草の中　小野寺朱実
ようように乗り越えたるか酷暑夏　小原　景守
朝露に生命の音や露草花　小原　子川
軒下に干柿のある風情かな　北村千鶴子
木せいの香り床しき駅の庭　公文多賀子
妻病むも共に生き伸び秋が来る　高野　和一
大いなる梢の騒めき朴落葉　千頭　野草
伝統の無病祈願の盆踊　西尾　玉喜
朝涼のホームの食事茶の旨き　萩野多美子
編み広げ満悦の蜘蛛望の月　福留とものり
つぎつぎと畦道燃やす曼珠沙華　三谷　誠郎
遠き日の吾子の似顔絵いわし雲　山崎　貴子
夕顔に勇気もらいてひと仕事　山﨑　寿美
園児等の服を汚して藷を掘る　和田　可代

◆かほく俳句会◆

この秋の空澄み渡り祖母となる　乾　真紀子
目つむれば亡夫も見てゐし十七夜　奥宮さとみ
子の声の亡夫かと惑ふ秋の暮　久保　貴女
生享けて八十五年望の月　黒岩　幸女
菊の香や座り直して礼を受く　黒岩千英子
ポケットの零余子に二合米洗ふ　小松　隆之
猪垣をして転作田蕎麦咲きぬ　小松　昇
信楽の器並べて秋刀魚焼く　杉山　春萌
彼岸花昨日の風と今日の風　西本　昶猪
曼珠沙華傾れて地球温暖化　前田　欣一
曼珠沙華池の水取り逆流す　前田　和代
刈り終へて一つ家囲む稲架襖　前田　秀女
翔つ構へして鷺草の枯れ渋る　森本　之子
畝上ぐる身へ真っ直ぐに秋日かな　山崎かずみ
秋冷や閉ず鍵音の農具小屋　山中　晶子
小鳥来るライダーの列見下ろして　山中　瑞輝
虫の声次第に遠く寝に落ちぬ　山中　明石

◆韮　句　会◆

蓮沼にるるると鳥のかくれ啼き　公文　春紀
秋深しへのへのポスター焦茶色　岡本かほる
柿熟れて何事もなき一日かな　高橋　章
棚田昏る落穂拾ひし子も喜寿に　北村　幸子
海見ゆる高さとなりぬ花野みち　西川　常夫
とんぼうにつと追はれ飛ぶ草の絮　甲藤　卓雄
曼珠沙華野にゴンドラの唄聞こゆ　野崎　典子
墓山にいつしかふへし百日草　北村　里子
存分に伸びて庭木に隼人瓜　明石　英子
藷つぼにすりぬかを入れ冬支度　竹内　ろ草

◆かがみの俳句会◆

母寝かせ今宵の月と韻きあふ　佐竹　洋子
秋深かし刀豆のさやふくらみて　鍵山　和枝
名月や病後の夫と庭に出る　佐藤　幸
秋灯下順拝荷物再確認　利根　弘子
追伸と一行添へて虫の夜　古川　信子
山里にあふるる恵み虫の秋　小松　愛子
秋晴の今日は補聴器よく聞こえ　西内　保衛
藁野積たつた一つに日が昏れる　中澤　美晴
暖冬に杜氏が迷ふ酒仕込　森本　倢代
千条の風は七色糸芒　山﨑　鈴子
今は無き生家のあたり鳥渡る　吉田　芳

◆土佐山田町俳句会◆

新聞に広げられたる唐辛子　明石　韮生
山畑にしゃしゃぶ二粒噛んでゆく　前田美智子
もらい風呂した昔あり二日月　前田　小夜
つむる眼の中まで晴れて菊匂ふ　橋本　昭和
耳打ちの息のやさしさ秋明菊　安丸　槙子
そこそこに生きて八十路の鰯雲　中沢としみ
筆硯ありてしづかや後の月　大石　邦男
津蟹下る捨田捨墓闇に置き　樫谷　雅道
棚田刈り雲影速くなりしかな　田村　一翠
道標に「ほっと平山」萩の花　馬場　英男

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで五句（首）以内）
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。

【投稿先】
企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501　香美市土佐山田町宝町1－2－1
（☎53－3114　FAX53－5958）